

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度(評価) |               |
|---------|---------------|
| A       | : 十分達成できている   |
| B       | : おおむね達成できている |
| C       | : やや不十分である    |
| D       | : 不十分である      |

|     |            |
|-----|------------|
| 学校名 | 佐賀県立神埼高等学校 |
|-----|------------|

|                  |  |
|------------------|--|
| 1 前年度<br>評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育目標達成に向けて、生徒自らが学ぶ意欲を高めていけるように、生徒の学力向上と学校の魅力アップの取組みを保護者や地域と連携しながら進めることができた。</li> <li>進路指導部や学年での取組みによって、生徒の希望進路実現に繋がってきている。また、生徒会活動や部活動の活性化と地域探究学習の推進により学校全体に活力が生まれ、生徒の主体的な学びにつながっている。</li> <li>安全、安心な学校づくりに全職員で取り組んできた。次年度以降もこの取組みを継続していく。</li> <li>令和3年度以降は、新校舎での新しい神埼高校の歴史を創る取組みを始めていく。</li> </ul> |
|------------------|--|

|          |  |
|----------|--|
| 2 学校教育目標 | 校訓「至誠、尚学、進取」を基調に、高潔な人格形成を目指した人間教育の振興に努め、地域に愛され、自信と誇りに満ち、向上心豊かで、社会を逞しく生きていく人間を育成する。 |
|----------|--|

|            |  |
|------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>①新たな大学入試制度に対応した学力の育成及び進路指導</li> <li>②生徒の地域を愛する心を育み、魅力と活力ある高校づくりを行う</li> <li>③業務改善の推進とコミュニティ・スクールを見据えた学校の組織力の強化</li> </ul> |
|------------|--|

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

| (1)共通評価項目          |  |   |  | 最終評価    |  |         |  | 主な担当者                                  |
|--------------------|--|---|--|---------|--|---------|--|--|
| 評価項目               | 重点取組   |   | 具体的取組  | 達成度(評価) | 実施結果   | 学校関係者評価 |  |  |
|                    | 取組内容   | 成果指標(数値目標)  |  |         |  | 評価      | 意見や提言  |  |
| ●学力の向上             | ○教科指導の充実   | ○生徒による授業評価において「理解できる」「概ね理解できる」の割合を80%以上にする。                               | ・生徒の目標や実態に応じた授業計画の作成<br>・授業研究や教職員間の相互研修の実施                                   | A       | ・90%の生徒が、授業内容を理解できていると回答している。また、90%以上の生徒が、授業に満足していると回答している。  | A       | ・教える側の期待値と生徒の理解度の相関についても分析した方が良い。<br>・理解できていない10%の生徒のサポートをしっかりといただきたい。<br>・授業参観では、先生方の熱意が感じられた。  | 各学年主任<br>各教科主任<br>教務主任<br>進路指導主事       |
|                    | ○家庭学習の充実   | ○各学年で設定した目標値の80%以上  | ・年4回の家庭学習時間調査実施<br>・ICT利活用による効果的な学習課題の提供                                     | B       | ・4回の家庭学習時間調査を実施した。調査前は十分にできているが、調査後は半減する傾向にある。<br>・90%以上の生徒が、ICTを活用した効果的な学習課題の提供がなされていると回答している。                                    | B       | ・ICT活用による効果的な課題提供がなされるようだが、生徒の主体的な学習姿勢につながっているかについては検証が必要。家庭学習の定着に向けてこれからも効果的な活用を実施してほしい。  | 各学年主任<br>各教科主任<br>教務主任<br>進路指導主事       |
| ●心の教育              | ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○生徒会活動に「満足している」と回答した生徒80%以上<br>○「問題行動を未然に防ぐ生徒指導が行われている」と回答した教員80%以上       | ・生徒主体の生徒会活動の推進<br>・地域清掃等ボランティア活動の実施<br>・問題行動の予防と再発防止の取り組み                    | B       | ・規模縮小など工夫しながら学校行事を実施し、80%以上の生徒が生徒会活動に満足していると回答している。<br>・80%以上の教員が、問題行動を未然に防ぐ生徒指導が行われていると回答している。<br>・SNS関連の生徒指導事案が発生し、今後の指導に課題が残った。 | B       | ・コロナ禍でも行事を実施できたことは評価できる。<br>・SNS関連の指導について、生徒自身がリスク等を調べ発表する場を設けるなど生徒の主体的活動も取り入れながら、今後の対応をしっかりと行って再発防止に努めてほしい。<br>・地域ボランティアをコミュニティ・スクールの活動にどう位置づけるかが課題である。 | 各学年主任<br>生徒会主任<br>生徒指導主事<br>人権・同和教育担当者 |
|                    | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実  | ○「安心して過ごせる学校づくりができている」と回答した生徒80%以上<br>○「いじめ防止について組織的対応ができている」と回答した教員80%以上 | ・いじめの認知・覚知について迅速な対応の徹底<br>・いじめ対応についての研修・会議の年間3回以上実施                          | A       | ・90%以上の生徒と保護者が、安心して過ごせる学校づくりができていると回答している。<br>・90%以上の職員が、いじめ防止に組織的に対応ができていると回答している。  | A       | ・いじめに対して対応が早く、組織的に行動できている。日頃から、小さいことを見逃さないように声をかけている結果ではないかと思われる。  | 管理職<br>生徒指導主事<br>教育相談主任                |
|                    | ◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進                            | ◎「将来の進路に向かって努力することができている」と回答した生徒80%以上<br>○「自己有用感、自己肯定感が高まった」と回答した生徒80%以上  | ・職業講話、先輩からの講演会の実施<br>・総合的な探究の時間、ホームルーム活動の充実                                  | A       | ・90%以上の生徒が、将来の進路に向かって努力することができていると回答している。<br>・80%以上の生徒が、自己有用感や自己肯定感が高まったと回答している。   | A       | ・生徒の自己存在感育成、共感の人間関係構築、自己決定の場提供は、授業力・教師力の向上との相関がある。今後も生徒一人ひとりに対して将来の進路に向けてサポートしてもらうことを期待する。   | 各学年主任<br>教務主任<br>教務副主任<br>進路指導主事       |
| ●健康・体づくり           | ●安全に関する資質・能力の育成  | ●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする<br>○「交通安全を心がけている」と回答した生徒90%以上                           | ・新通学路について地元住民との協議と合意形成<br>・新校舎移転後の通学路の安全徹底<br>・交通安全講話や啓発活動<br>・交通指導、登下校指導の充実 | A       | ・90%以上の生徒が、交通安全をいつも心がけていると回答している。<br>・生徒指導部を中心に、交通指導と登下校指導を実施した。新校舎移転後の通学路では、軽い接触事故が数件発生したが、おおむね安全確保ができていた。                        | A       | ・校舎移転後の新通学路への配慮がきめ細やかで、指導も細部まで行き届いていると思われる。<br>・生徒自身が交通安全を心がけているのがとても良い。   | 生徒指導主事<br>各学年主任                        |
|                    | ○教育相談や特別支援教育の充実  | ○「教育相談体制が整っている」と回答した教員80%以上<br>○「必要な生徒に適切な支援が行われている」と回答した教員80%以上          | ・教育相談に関する研修会の実施<br>・特別支援教育に関する研修会の実施<br>・ケース会議の開催、情報共有                       | A       | ・80%以上の生徒・保護者・教員が、教育相談の体制が整っており、適正な支援が行われていると回答している。<br>・関係機関とも協力し、様々な障害を持つ生徒たちへの対応を全職員で取り組んだ。                                     | A       | ・教育相談体制は充実していると思われる。<br>・個別の支援計画は、障害の有無に関わらず、どの生徒にも必要である。  | 教育相談主任<br>特別支援教育コーディネーター<br>各学年主任      |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減   | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。   | ・学校閉庁日の設定<br>・部活動休業日の設定  | C       | ・時間外在校等時間が月100時間超1名、平均80時間超2名であったが、月45時間超の職員が半数以上を占める月もあり、目標を達成しているとは言い難い。   | B       | ・時間外労働は移転による業務量増大が原因ではないかと思われるが、アンケート結果を見ると、先生方の働き方改革は進んでいると回答されている。先生方の努力は評価できる。  | 管理職                                    |
|                    | ○働きやすい職場環境づくりの推進   | ○「職員間での連携が図られ、教育活動がスムーズに進められている」と回答した教員80%以上                              | ・職員間でのコミュニケーションの充実、課題の共有、協働意識の醸成<br>・来訪者に対する窓口対応、電話対応の満足度の向上                 | B       | ・80%以上の教員が、職員間で連携が図られており、教育活動がスムーズに進められていると回答している。<br>・校舎移転移転作業に伴い様々な問題点が出現したが、職員の協力で乗り切った。  | A       | ・学校の雰囲気からも職員間のコミュニケーションは充実していると感じる。  | 管理職<br>各分掌・学年主任                        |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目          |  |  |  | 最終評価    |  |         |   | 主な担当者           |
|-------------------------------|--|--|--|---------|--|---------|---|-----------------|
| 評価項目                          | 重点取組   |  | 具体的取組  | 達成度(評価) | 実施結果   | 学校関係者評価 |   |                 |
|                               | 取組内容   | 成果指標(数値目標)   |  |         |  | 評価      | 意見や提言   |                 |
| ○新たな大学入試制度に対応した学力の育成及び進路指導    | ○各学年の状況に応じたキャリア教育の実践                                 | ○年度末に、「年度当初に比べて将来に対する目的意識が高まった」という生徒80%以上  | ・進路講演会、オープンキャンパス、大学ジョイントセミナーの実施<br>・進路に関する情報の発信<br>・生徒及び保護者との面談の実施   | B       | ・90%以上の生徒が、年度当初に比べて将来に対する目的意識が高まったと回答している。<br>・オープンキャンパス等は、コロナ禍で開催自体が少なく、生徒の進路決定に十分ではなかった。<br>・共通テストは、2年目で混乱なく対応できた。 | B       | ・進路情報が保護者までは十分に浸透していないように思われる。<br>・ICT活用による情報収集など、生徒の主体的な進路学習を実施してほしい。          | 進路指導主事<br>各学年主任 |
| ○コミュニティ・スクールを活用した魅力と活力ある高校づくり | ○地域の抱える様々な課題を発見し、その解決策を考えさせることによる、地域貢献のビジョンをもった人材の育成 | ○年度末に、「年度当初に比べて地域の抱える課題や解決策についてよく考えるようになった」という生徒80%以上<br>○次年度のコミュニティ・スクール設置に向けた準備を完了させる。 | ・フィールドワークの実施<br>・市役所訪問、ローカリスト講演会の実施<br>・研究成果発表会の開催<br>・学校運営協議会の組織づくり | B       | ・80%以上の生徒が、年度当初に比べて地域の抱える課題や解決策についてよく考えるようになったと回答している。<br>・コミュニティ・スクールの組織の概要は固まったが、具体的な運営方法や活動の方向性は検討中である。           | B       | ・学校課題解決に向けて、地域の協力や支援は欠かせない。次年度のコミュニティ・スクール導入に期待する。                              | 管理職<br>各分掌・学年主任 |
| ○自ら考え、行動する生徒の育成               | ○探究学習や学校行事への主体的参加を支援することによる、社会で活躍したいと考える生徒の育成        | ○「社会を見る視点が身についた、もの見方が深まった」と考える生徒70%以上  | ・地域探究学習の充実<br>・生徒が活躍できる学校行事の運営                                       | A       | ・90%以上の生徒が、探究学習を通して社会を見る視点が身につく、もの見方が深まったと回答している。<br>・新校舎落成記念式典など、学校行事で生徒の活躍の場を設けることができた。                            | A       | ・引き続き社会を見る視点を身につけさせ、もの見方を深めさせていきたい。<br>・落成記念式典を生徒主体で行っていたことは、学校愛につながる良いことだと思える。 | 管理職<br>各分掌・学年主任 |

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

|                |  |
|----------------|--|
| 5 総合評価・次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校運営全般において、新型コロナウイルス感染症の影響により多くの制約がある中、保護者や地域とも連携しながら、生徒は落ち着いて学校生活を送ることができた。</li> <li>学校評価アンケートにおいては、各項目において概ね生徒と保護者の評価は高い。生徒たちが、学習活動や生徒会活動、部活動をととして、夢や目標の実現に向かって進む雰囲気作りができている。次年は、コミュニティ・スクール導入の初年度であり、組織体制も固まり、新しい学校づくりにいかに地域を巻き込んでいくかが試される1年間となる。</li> <li>いじめ防止や特別支援教育をはじめとした安心して過ごせる学校づくりに関しては、全職員で協力しての取組みができおり、次年度も引き続き行っていく。</li> </ul> |
|----------------|--|